

相談の
窓から

見守ること

「生徒の少ない最初の頃は、皆でちやほやしてくれたけど、他の子が増えてきたらあんまりかまってももらえなくなった。」と言って、「そだち」から、足がとおのいていった生徒がいます。

私は、新しい子どもが「そだち」にやってくると、なんとかその緊張を取り除いてあげたい、いろんな場所や場面で疲れた心を温かく包んであげたいと考えます。そのためには、いっぱい話を聞いて、いろんな話をして、たくさんそばにいてあげるのがいいだろうと考えます。

そして、しばらくして、また考えます。「この子ども、だいたい慣れてきたようだから、少しずつ手をはなして、あまり、息苦しく感じないぐらいのところまで、見守ってあげよう。」と。ところが、その少しずつが、なかなかうまくいきません。新しく入室する子どもが、いっぺんに増えたり、何か行事があったりすると、そちらのほうにかかりきりになってしまいます。先に入室している子どもたちのことは、「あの子たちは、もう慣れてこのことわかっているから大丈夫。」などと、自分に言い訳をします。そして、新しくやってきた子どもの緊張を解くことや、その子どもが、続けて通室できるように援助することのほうに、大きく力を向けてしまいがちになります。それでよしとは、決して思っていないので

すが、「今は仕方がない。」と考えてしまいます。

しかし、子どもたちからしたらどうでしょう。突きはなされたような寂しい思いが、心に残ると思います。特に、少しずつというのがうまくいかなかったときには、最初の時のかわりが、強く深かった分だけ忘れられたような気持ちを抱くことと思います。子どもはどの子どもも『私はここにいる。』ということ、いつも気にしてくれる人を、その素振りには見せなくても、常に心で求め追いかけています。子どもが、うるさく感じるほどにかますぎるのは、子どもが、自分で決定する力を育てる妨げになります。しかし、『あなたのことは忘れてないよ。そこにいるのわかっているよ。あなたがそこにいてくれてうれしいよ。あなたの場所はそこでいいんだよ』ということは、常に、伝え続けていく必要があるのではないのでしょうか。

それは、「そだち」についてだけ、いえることではなくて、学校の教室でしっかりしていると、先生たちの目に映る子どもたちについても、同じことがあると思います。「あの子は、しっかりしているから、大丈夫。」というように、どれだけ慣れてきても、どれだけしっかりしているように見えても100%大丈夫なんていう子どもは、いないんだということ、いつでも、忘れないでいたいと思います。

コラム アジア大会での感動

アジア大会のいくつかの競技をテレビで観戦した。終了間際の逆転の勝利、20年ぶりの日本人選手の優勝など選手の活躍に熱いものがこみあげるシーンが数多くあった。その中で、一番心に残ったのは開会式と閉会式だった。

わたしは、高校時代よりインターハイ、国体など、いくつかの全国大会に運よく出場することができた。しかし、どの大会の開会式もいまひとつ満たされないものを感じてきた。それは、不自然に高く手を振って行進する選手、音楽を意識しすぎるのかどことなく自信なさそうに行進する選手等への違和感だった。

本来、開会式は厳しい予選を勝ち抜いた選手と競技会開催のために長年苦勞されてきた地元の人たちとの交流の場であり、出会いを喜び、大会で

の健闘を誓い、今までの努力に感謝する場であるとわたしは考えている。そこで、選手や観客にはもっと自分に自信を持ち、身体全体で喜びや感動を表現してほしいと願っている。

今回の開・閉会式では、以前とは比べようもないくらい明るい表情と若人の躍動感が溢れていたように思う。それが、わたしの心に焼き付き、鮮烈な印象と感動を与えてくれたのであった。

(中山)



発行者 金沢市教育センター
菅波稔之

〒920 金沢市武蔵町14番31号
TEL (21) 7949・1642
FAX (21) 6800



写真：映画会に集まった子どもたち - 弥生児童館にて -

第112号
平成6年11月30日発行

フィルム利用 紹介

児童館の楽しい催し

教育センターでは、16ミリ映画フィルムやビデオ教材をより多くの所で、気軽に使っていただくため、小中学校・幼稚園・保育園・保育所・児童館・公民館に教材を搬送しています。今回は、その中から弥生児童館での映画会の様子を紹介します。

この児童館は弥生公民館と併設されており、泉中学校のすぐ隣にあります。よく利用しているのは、学童保育の子、近くから遊びに来る子、いろいろなクラブの子、「カンガルー教室」でお母さんと一緒に遊びに来る2歳児、今日の映画会のようないろいろな催しにやってくる子など、近隣の子どもたちです。弥生小学校以外にも、校下が近い野町小学校から来る児童もいます。

訪問した時刻が少し早くて、図書室で待つ間、午前中の催し「トーテムポールづくり」の作品を見ていると、体育館が少しにぎやかになってきました。小学校低学年の子に混じって「料理クラブ」にやってきた高学年の子もいます。鉄棒やマットで遊んだりボールやクッション、一輪車で遊ぶ子もいます。「映画が始まるよ」という声で子どもたちは隣の小さな教室に集まってきました。

今日の映画は「ムーミン(落ちてきた星の子)」 「幸せ色の小さなステージ」 「あかずきん」の3本です。スクリーンに数字がでると、カウントダウンが

始まって、子どもたちの小さな目はスクリーンに集まります。ファンタジックな映像で子どもたちの夢が広がります。1本が終わると「ムーミンの他に何がでてきた?」とか子どもたちと対話しながら職員が手際よく次のフィルムにかけかえます。

2本目は児童劇です。主人公は小学校へ就学するまえの小さな女の子、山の中の小さな分校で新任の女の先生との交流がテーマの作品です。テレビのアニメ番組ばかりになれている子どもたちにはなじみのない児童劇で、始めは戸惑っているようでしたが、しだいに画面にとけ込んでいきました。

フィルムのかけかえの間、退屈しないように、しり取りをしたあと、3本目はみんなのよく知っている「あかずきん」です。スクリーンを一生懸命見ている子どもたちの目が印象的でした。

教育センターの映画フィルムが児童館の活動に役立ち、子どもたちが楽しんでくれているのを見て、嬉しい気持ちで帰路につきました。

当センターから、小中学校へはビデオ教材を中心に、幼稚園・保育園・保育所・児童館には16ミリ映画フィルムを中心に貸し出しが伸びています。新しいフィルムも順次増やす予定ですので、これからも、気軽に電話して、ご利用ください。

ただいまパソコン教材開発中!!

平成4年度より始まった「パソコン教材開発委託事業」は現在25本(小10, 中15)完成しています。更に今年度も下記の内容で15本制作中です。小学校教材・中学校英語教材はFCAIで、中学校教材(英語除く)はTMOSという教材作成支援ソフトを使用しています。これらのソフトは誰もが手軽に作成したり、変更したりできるソフトです。

- 利** 小学校: 配布したフロッピーにはFCAI実行用・教材データが入っています。添付の説明書にしたがって起動し運用してください。なお児童に操作をさせる場合は携帯パソコンの貸し出しも行っています。
- 用** 中学校: TMOS実行用が21セットすべての学校に導入されました。配付されたデータを添付の説明書にしたがって運用してください。なお、データの加工・編集等を行ってもかまいません。
- 法**

校種	教科	学年	教材名	制作者(学校名)
小学校	国語	1・2	ことばの学習2	玉瀬磨美子(富樫小) 中島満子(富樫小)
	社会	6	歴史人物データベース ~戦国時代~	荒牧秀樹(栗崎小) 中村裕司(弥生小)
	社会	6	歴史人物データベース ~明治時代~	堀内克之(味噌蔵町小) 奥野豊夫(三谷小)
	算数	1・2	整数のひき算	安田肇(西南部小) 森裕之(長坂台小) 横江真(長坂台小)
	理科	4	生き物の1年間 ~樹木の変化~	菖蒲田英夫(米丸小) 豊田英隆(米丸小)
中学校	理科	4	教師用実験マニュアル	濱田昌博(金石町小) 山下良夫(戸板小) 高田智生(戸板小) 中川隆博(浅野町小) 吉田弥(三馬小)
	社会	1	1世界とその諸地域 第3章 ヨーロッパ 第4章 インド 第5章 中国	寺井雅樹(港中) 酒本彰(港中)
	社会	1	1世界とその諸地域 第6章 東南アジア 第7章 アメリカ合衆国 第8章 ロシア連邦	鍋嶋康敬(森本中) 本川恵美子(森本中)
	数学	1	各単元の導入用教材 1章 正負の数 ~ 6章 空間図形	近本嘉治(金石中) 福田正克(金石中)
	数学	2	各単元の導入用教材 1章 式の計算 ~ 6章 資料の処理	亀澤栄見子(額中) 藤井克巳(額中)
	理科	3	6大地の変化 1 地震 2 火山の活動と火成岩	吉本律子(高岡中) 新田町挙司(城南中)
	理科	3	6大地の変化 3 たい積岩と地層 4 大地の変動	橋爪正美(森本中) 坂井容子(森本中)
	英語	3	英単語学習ドリル 「What am I? (3)」 中学校3年名詞編	青木雅人(医王山中) 中克之(城南中) 村井万寿夫(三和小)
	英語	3	英文学習ドリル 「What do you say? (3)」 中学校3年英文編	西川健一(緑中) 上田敬太郎(港中) 米山千幸(緑中)
	自由	1・2・3	石川県公立高校入試問題の解説(理科編)	宮腰茂(高岡中) 松原仁(高岡中)

編集を前提にしたビデオ撮影のポイント

2学期に入ってから、ビデオの編集に来所される先生方が増えています。ご自分で取材されたり、音楽やナレーションを工夫されたり、教材の自作に対する熱意を感じます。そこで、少しでも良い作品に仕上げるために、撮影や録画の際の留意事項をお知らせします。



- 撮影は標準モードで行い、3倍速撮影はしない。
- テープは高品質のものを用い、S-VHSやHi8規格のカメラで撮影する。
- プレのない安定した映像を撮る。できるだけ三脚を用いるのがよい。
- 各シーンは、始めと終わりの部分を少し長めに撮る。
- 特に必要としない場合は、画面上に年月日や時刻を表示しない。

教育相談の基礎

自己理解のために

—感情と認知—

私たちは日々の生活の中で、様々な感情を体験します。例えば、仕事が認められ喜びや自信を感じたり、音楽やドラマに深い感動をおぼえたりと、肯定的な感情に包まれることがあります。逆に、同僚と喧嘩して強い怒りに打ち震えたり、叱責され不安に苛まれたり、否定的な感情に翻弄されることもあるかもしれません。まさに、喜怒哀楽を実感しながら、これらの感情のバランスの中で、日々の生活を営んでいるのです。

感情のバランスが崩れ、否定的な感情が強くなると、しばしば心身症や神経症のような精神衛生上の問題が生じやすくなります。日々の生活の中で体験する様々な感情が、私たちの精神状態に大きな影響を与えているのです。

さて、「感情とは身体の内奥から沸き上がる自然な反応であり、感情を意識的にコントロールしたり変化させることはきわめて難しい」と一般に考えられがちです。確かに、酒やタバコが身体に悪いと頭でわかっているにもかかわらず、接触を必要とする場面でもその人が嫌いだとついつい避けてしまうなど、感情を意思の力でコントロールすることは至難といえる面をもっています。

しかし、上に述べた「感情とは身体の内奥から沸き上がる自然な反応」という一般的な考え方には、実はそれほど単純に肯定できない面があり、そのことを理解することで、感情の意識的なコントロールが一部成功する可能性をもつのです。

その辺りの事情を少しお話したいと思います。まず、感情のコントロールを考えるにあたって、感情と情動を区別する必要があります。実は上述した「身体の内奥から沸き上がる自然な反応」とは、感情でなく情動を指しているのです。感情とは情動のように自然に引き起こされるものでなく、情動を基礎に置きながらも、認知(思考)による決定的な影響を受けたものなのです。

例えば、職場の先輩から厳しく叱責され、その場で強い恐怖や不安を感じた場合を考えてみましょう。このとき感じた強い不安や恐怖は、本人の意思とはそれほど関係はなく、まさに「身体の内奥から沸き上がる自然な反応」、すなわち情動といえます。このような情動は、人間のみならず動物にも共通した反応と考えられます。動物は、環境からの刺激に

対してたえず瞬時の情動反応をすることによって危険を回避し、自己や種の保存を遂行しています。

ところが人間の場合、情動反応のみで反応を終了することは少なく、多くの場合、次に認知(思考)の影響を強く受けた感情が出現します。先ほどの厳しく叱責された例では、動物の場合、情動により危機が回避されればその情動は瞬時に消失しますが、人間の場合、情動が消失した後に、認知(思考)によって様々な感情が生まれてきます。例えば、帰宅し床に就いた後、叱られた情景が再現され、恐怖や不安の追体験を通してより強い恐怖や不安が増幅されたり、また逆に「あのとき言い返せばよかった」「相手にも非がある」など、当初引き起こされた恐怖や不安とは異なる、相手への怒りや攻撃の感情が襲ってくることもあるかもしれません。

いずれにせよ、一過性の情動とは異なる比較的永続性のある感情が、認知によって形成されるのです。このような認知の影響を強く受けた感情が、私たちの精神状態に大きな影響を与え、心身症や神経症の発症にも深く関与していくのです。

感情自体のコントロールは困難であっても、感情に影響を与える認知の特徴を理解することはできます。そのことによって、感情のコントロールを一部行うことが可能となるのです。

以下に、私たちがもつ認知の特徴の中で、否定的な感情を生みやすい「認知の歪み」を列挙しておきます。(バーンズ, D.D. (1980) 参考)

1. 白黒思考 ひとつのものを「白か黒か」、「100%かゼロか」と決めつける。
2. 過度な一般化 嫌なことがひとつあると、「世の中はすべてこうだ」と一般化して考える。
3. マイナス思考 よい出来事があっても無視し、悪い面や失敗だけを考える。
4. 結論への飛躍 「あの人は自分を嫌っている」のように、あらかじめ結論をだしてしまい、そのことを確かめない。
5. べき思考 「~すべきだ」「~すべきでない」という基準で行動し、できないと自分や相手を否定する。
6. レッテル貼り 「過度の一般化」の極端な私たち。自分や相手にレッテルを貼り決めつける。
7. 否定的比較 自分の失敗や他人の成功を過大に評価する。